

学内・外にわたる輝かしい足跡 —森宮勝子教授への献辞

経営学部長 櫻 井 隆

32年間にわたり、本学経営学部で研究教育活動に励んでこられた森宮勝子先生が、本年3月をもって定年を迎え退職されることになりました。その間の森宮先生のご功績は極めて多大であり、また本学部はもちろんのこと大学全体へのご貢献は計り知れないものであります。少しでもそのご恩に報いるために、ここに記念号を発刊する運びとなりました。森宮先生、本当に長い間ご苦勞様でした。そして大変にありがとうございました。

森宮先生は、昭和40年3月に明治大学商学部を卒業後、同年4月に同大学の大学院に進学し、清水晶先生の下で薫陶を受けられるとともに、大学院時代には島田燁子理事長のお父上様で、高名な経済学者大野信三先生の「経済学」の授業を受講され、45年に同大学院博士課程を単位取得され、満期退学されました。その後47年には文部省の教員組織審査に合格され、田中千代学園短期大学専任講師として研究生活に入られ、マーケティング・リサーチ、情報分析などを担当され、昭和57年本学の前身である短期大学経営学科開設と同時に助教授になられ、本年3月で定年退職されることとなりました。

森宮先生について、以下の3点から先生のご貢献と感謝を述べさせていただきます。

まず第1に、先生の学会あるいは社会貢献についてであります。先生は昭和63年から平成5年までの6年間、日本消費経済学会の評議員をされ、その後平成5年から平成20年までの15年間にわたり同学会の理事の要職を務められました。この他、大井町行財政改革推進委員会委員長、大学基準協会専門委員など数多くの要職に就かれました。我々大学の研究者は単に研究教育するだけでなく、それをどう社会貢献に生かしていくかということが問われておりますが、先生は本学教員として大いに社会のために貢献され、本学の名声を高める貢献をされました。

第2に、教育に対する情熱ということであります。かつて大野信三先生がある先生より「大学の教員にとって最も必要なものは何か」と問われ、大野先生は間髪を入れず「それは情熱です」と答えられたということをお聞きしたことがありました。森宮先生は大学院時代に大野先生の教えを受けられたこともあり、森宮先生ご自身も学生に対する教育は大変熱心でありました。たとえば、昭和58年、短大経営学科として初めての大学祭で先生のゼミは「女子大生の衣料品保有状況の調査」をテーマとした研究報告を展示し、その後も毎年大学祭では調査研究したものを基礎に展示発表を行っております。同じ研究者として毎年学生に調査をさせ、それをもとに展示させる、しかも当時は現在のようにそれほど情報機器が発達していなかった時代

であり、ほとんどが模造紙にマジックペンで手書きをするといった方法で行われていました。また短大としては珍しく卒業論文をゼミの単位取得の条件としていました（これは現在も同様です）。さらに当時は年2回、ゼミナール連絡委員会（現在のゼミナール連絡協議会）主催による各ゼミ代表者による研究報告会が開催されていました。ちなみに、先生のゼミの第1回発表テーマは「女子大生の衣料品保有状況」で、報告者は山内章子さんで、彼女は優秀賞を受賞しています。この報告会は学生の報告会という意味合いもありましたが、日頃教育している教員の教育成果の場という意味合いもあり、各教員はリハーサルを行うなど、かなり力を入れておりました。年間で当時11のゼミが1年間で2回、合計22名が発表し、そのうちの5名のみが受賞するという狭き門に先生のゼミ生が入るということは、どれほど先生ご自身が学生に対して熱心に情熱を傾けていたかを物語っていると思われます。当時の連絡委員会の機関誌である「フォーラム」第3号（卒業記念号）19頁には、ゼミでの一年を振り返ってというテーマで各ゼミの代表者1名が一文を寄せていますが、先生のゼミ生黒川明子さんは「ゼミでの大きな課題である卒論製作にあたっては、社会での問題点など、今まで自分が知らなかったことと接することができ、また、文献の収集の方法など、論文を書くという行動以外にも学んだことが多かった」と述べるとともに「森宮先生の私達への優しい接し方の中で、私にとって苦手な消費者行動研究も次第に楽しいものになっていった」と述べているように、一人ひとりの個性を大事にしながら学問の楽しさを教えてこられたことは我々、後輩の教員にとっては非常に学ぶところが大きいと思われます。

第3に、私事にわたって恐縮ではありますが、私が本学に入職したのは森宮先生と同じ短大経営学科開設の昭和57年でありますが、当時、私は29歳でそれまでは男女共学の短大や法学部で教鞭をとっており、どちらかというとも男子学生が多い中で教員としてスタートしました。それが女子学生しかいない女子短大に入職し、非常に戸惑っていたことを今でもよく覚えております。それを察知されたのか、森宮先生から一緒にゼミ合宿をしないかとのお誘いをいただきました。当時は熱海の来の宮に大学の寮があり、そこで何年間か合宿をご一緒させていただきました。このことは大変に感謝しております。またそれが縁で先生のゼミと私のゼミとでボーリング大会を何年も続け、トロフィーまで出して戦ったことは良き思い出となっております。このように私が大学の教員として実質的にスタートした57年当時、ある意味で私は森宮先生に教員としての基礎を教えていただきました。さらに開設当時私は学生委員会に所属していましたが、森宮先生も同委員会に所属されておりました。当時は保育科と合同でメンバーは7名、しかもこの7名は非常に団結力があり、短大9年間一度もメンバーが変わることはありませんでした。

このように公私にわたってお世話になった森宮先生が本学を去られることは個人的にも非常に寂しい限りであります。しかし、今後も、色々な形で文京学院大学に係わってくださることを期待しております。今はただ、森宮先生の今後益々のご健勝とご活躍を心よりお祈りする次第であります。